



# コロナ禍のタイ、 第3波後の新局面への挑戦

シム プラング・ナッタデット  
CHOOMPLANG NATTADECH

●タイ国立タマサート大学 (Puey Ungphakorn School of Development Studies) 助教授

タイは、感染初期段階において封じ込めに成功したのだが、2020年12月に、バンコク近郊の街でのクラスター発覚以来、感染者数が急増した（第2波）。また今年の4月以降は変異株が広がっており、新たな局面を迎えている。その後の感染者は4カ月で22倍以上に増えている状況で（第3波）、首都バンコクとその近郊都市などでは夜間外出禁止や移動制限を含む非常事態宣言が発せられ、ロックダウンの状態に置かれた。その結果、6月から7月にかけて月累計感染者が5万人台であったのが8月下旬に入り、緊急事態宣言の効果があったのか、徐々に1万人台に減少し、新規感染者数は現在減少から横ばいに転じている。

その間、バンコクと周辺都市では行動規制が再強化されるなど状況の変化に即応し、市民生活に深刻な影響を与えている。保健省が9月22日に発表したところによれば、過去24時間における新規感染者数は1万1,252人、感染者の死亡者数は141人となっていて予断を許せない状況が続く。

タイ保健省は、今回の規制で住民に対し、昼間に在宅勤務に努めることや、夜間（午後9時～午前4時）に外出しないことを求める。経済活動については、ショッピングモールなどが閉鎖されている。食品スーパーや銀行、薬局、飲食店の持ち帰り営業については、夜間を除いて営業が認められている。

今回の規制では初めて公共の場でのマスク着用を義務付けられた。また、新型コロナウイルスの流行で多くの企業が、在宅勤務(Work from home)

いわゆるテレワークを実施し、どうしても在宅勤務が難しい会社は職場での交代出勤をするなどの対策をした。経営が悪化した会社は、社員に特別休暇をとらせ、休業補償として給料の75%を支給する形で雇用の継続を図っている。しかしながら政策的な補償があっても業務を継続できなくなった会社、倒産した会社も多く、その結果、生活苦とストレスによって自殺者が増えている。まだ経済の回復には時間がかかりそうだ。

一方で、タイ政府は、感染拡大及び重症化を防ぐべく、コロナワクチンの接種を急いでいる。タイ国内では、今年2月下旬から接種が開始された。5月5日の閣議決定では、2021年5月から12月までの期間に、タイ人口約7,000万人のうち7割にあたる5,000万人について2回分の接種を終えることを目標とした。また、「タイに居住する全ての接種希望者は、国籍に関係なくワクチンの提供を受けることができる」というのが政府の基本方針となっている。さらに、5月12日に開催された全国ワクチン委員会において、「2022年内に1億5,000万回分のワクチンを調達し接種を加速させる」と具体的な目標が掲げられた。タイ国内では6月上旬から一般市民向けの接種が始まったが、供給量が制約されているため、ワクチン接種が大きく遅れている。

また感染拡大で打撃を受けた経済の立て直しを急ぐ必要があるとして、政府は、外国人観光客を受け入れるため、今年10月中旬までに入国制限を大幅に緩和する方針を示した。タイ政府は、国境



「皆のために、袖をまくれ！」とのワクチン接種を呼びかける広告  
(バンコク都内の某バス停にて筆者撮影)

再開の第2段階として、2021年10月1日からバンコクおよびチェンマイ、チョンブリー、ペッチャブリー、プラチュワップキーリーカの各県で海外旅行者の受け入れを再開すると発表した。これは、7月から再開されたプーケット、スラートターニー、クラビ、パンガーに続くものである。タイ政府は、受け入れ開始に先立ち、地元住民のワクチン接種も加速させるとともに、新たな新型コロナウイルス感染予防ガイドラインを策定した。今回の対象県で観光キャンペーンも立ち上げる。10月中旬からは、さらに、チェンライ、ランブーン、スコータイ、カンチャナブリ、アユタヤなど21地域で海外旅行者の受け入れを開始する予定である。タイ政府は4段階で国境再開を進めており、2022年1月に第3段階として、隣国とのトラベルバブルを条件に国境沿い13県での海外旅行者受け入れを再開するとしている。

タイでは最近、あらゆる場面で“NEW NORMAL（新しい生活様式）”という言葉聞くようになった。常にマスクをしたり、SOCIAL DISTANCEをとらないといけない。各場所、各ビルに入る前に、入口で検温したり、自分がいる場所のCHECK INをしたり、マスクもしないと立ち入り禁止になるなど、“With/After/Postコロナ”における変化の範囲は多岐にわたる。もともと自由を尊重するタイでは、ややもするとルールや法律に縛られたくないとする人が多いのだが、新型コロナウイルスが発生して以来、人々の行動に変化が見られるようになった。ルールを守れなかったタイ人が、自分

の身を守るために生活習慣を緊急事態へと適応させたのだ。

タイにおいてのコロナとの戦いは新たな局面を迎えた。国内の感染者数は減少傾向にあり、わずかではあるが、収束に向けた光が差し込み始めたと感じている。今後、国民ひとりひとりが、日常生活の中で「新しい生活様式」を心がけ、感染症拡大を予防し、また多くの人にワクチンが行きわたることによって、柔らかな光はより強さを増すはずだ。その光は‘戻ってくる日常’と‘新しい日常’を照らし出すはずだ。

次々と変異するCOVID19ウイルスによるパンデミックの終息は、自国の努力だけではなしえない。科学的に対処することができず目先の利益にしか考えが及ばない経済界の要請に従って規制と解除を繰り返す国などが延々と終息を見ることができない状況にある。タイを含む多くの国が、そこに住む人々の知識と努力とともに、これからの未来に向けて、コロナと共に共存して、私たちの行動を新たな常態に変えていくことが大切である。



ニューノーマル時代の托鉢風景